

6月に向けて

代表取締役 三田雅憲

先期、先々期は新型コロナウイルスの影響もあり、厳しい経営が続きました。ただこの厳しい中においても、人材育成や教育新人採用など、人的投資と、働き方に関しても社員の安息を考えて休日を増やしました。電力消費低減とSDGsに向けてLED化も進めました。又、今後の女性活躍の為にハラスメントを無くし、様々な対応を考えていきます。そして健康経営の為に食育や、産業医の活用も進めております。社員個人の成長を後押しする為に1on1ミーティングも3月よりスタートを切りました。受発注や経理会計、そして勤怠管理のDX化も先期は進めました。そして本期40期の4月始めに会社の経営方針を皆様に公示して会社の進む方向を示しました。今度は社員皆さんが個人で目標をさだめ、それに向かってしっかりと切磋琢磨していかねばなりません。指示書や納期・管理・段取表・ツールBOXミーティング(夕礼)など生産性向上のための取り組みをいろいろしてきておりますが、本質としては、個人のマルチ(多態工)化を進め、作業のボトルネック部分にいろいろな人が応援できるように又、相手の気持ちを理解できる人材へと変わってもらえるように人格陶冶を目指して下さい。これらの生産性向上をめぐる取り組みは、平石先生と一緒に進めるアクションプランと同様に当社が今後進めるQCサークルに近く、習慣にしていってほしい活動の一つでもあります。そして、こういう取り組みの一つ一つが社会に対して、企業価値を高めお客様が安心して取引して頂くための基礎になっていくのです。

又、当社としては社長賞のカテゴリーの一つでもあります「新製品開発」に力を入れていきたいと思っております。品質の高いものを短納期で進めることも大切ですが、世にない仕上げや製品をお客様のニーズに近いところで提案できるような仕上げを生み出していただける会社になることも大切であると考えております。当社は来年創業55周年の節目を迎えます。この節目を大切なターニングポイントと考えて次代を担う社会人であり会社になれるように頑張っていきたいと考えております。